作品データ

キ
●ビジターセンター
屋根：フッ素アルミ定尺横段葺
外壁：スレート波板（小波）塗装品
開口部：アルミ製建具　鋼製建具
外構：アスファルト舗装　ウッドデッキ　植栽
主な内部仕上げ
●ホエールランド／展示室
床：鋼製床組＋フローリングｔ＝15mm
壁：GB-Rｔ＝12.5mm＋9.5mm＋EP　木毛板ｔ＝15mm＋EP
天井：鉄骨＋DP　木毛セメント板ｔ＝15mm＋EP
●交流施設／交流スペース
床：コンクリート金ごて＋表面強化剤
壁：GB-Rｔ＝12.5mm＋9.5mm＋EP
天井：鉄骨＋DP　木毛セメント板ｔ＝25mm＋EP
●ビジターセンター／展示室
床：転ばし床組＋フローリングｔ＝15mm
壁：GB-Rｔ＝12.5mm＋9.5mm＋EP
天井：鉄骨＋DP　構造用合板ｔ＝24mm＋OS
電気設備
●ホエールランド
受電方式：高圧PF型
設備容量：130kVA
●交流施設
受電方式：低圧供給
契約電力：単相３線210 20kW　三相３線40kW
●ビジターセンター
受電方式：高圧PF型
設備容量：105kVA
空調設備
空調方式：空冷ヒートポンプパッケージ方式
給排水衛生設備
●ホエールランド
給水：直結給水方式
給湯：個別給湯方式
排水：下水道放流方式
●交流施設
給水：直結給水方式
給湯：個別給湯方式
排水：下水道放流方式
●ビジターセンター
給水：直結給水方式
給湯：個別給湯方式
排水：下水道放流方式

20
日和山小幡楼

建築主
酒田市
設計
設計計画高谷時彦事務所
総括／高谷時彦
建築：担当／大高 崇*・石田亮也*・池田智子・遠藤好子
構造：安芸構造計画事務所　担当／古川洋・石 大樹
設備：アーキシステムエンジ　担当／茂木清信*・畑山 敦（*元所員）
コスト：団建築積算事務所　島袋善三・神山直樹
施工
斎藤工業所
総括／佐藤智明
建築：担当／佐藤義晴・堀 智之
電気：ハクヨウ電気　担当／加藤 亮
機械：東北電機鉄工　担当／阿部紘二
工程
設計期間：2016年４月～2019年３月
施工期間：2019年４月～2021年10月
規模
敷地面積：2,174.65m²
建築面積・建蔽率：440.60m²・20.26％
延床面積・容積率：766.30m²・35.24％
階数：洋館／地下１階　地上２階　和館／地上２階
高さ：最高高さ／10.6m
構造
洋館／鉄筋コンクリート造　木造　和館／木造
敷地条件
地域地区：商業地域　準防火地域
道路幅員：北8.9m
主な外部仕上げ
●洋館
屋根：カラーガルバリウム鋼板0.4t　横葺
外壁：構造用合板　透湿防水フィルムおよび通気層の上　ガラス繊維入りセメントモルタル板　フッ素系弾性複層仕上げ
開口部：アルミサッシ　Low-E複層ガラス
●和館
屋根：カラーガルバリウム鋼板0.4t　横葺
外壁：構造用合板　透湿防水フィルムおよび通気層の上　スギ下見板張り　硅酸木片セメント板　改質アスファルトルーフィング　カラーガルバリウム鋼板0.4t　横葺
開口部：既存木製建具ほか
外構：再利用御影石敷きほか
主な内部仕上げ
●洋館地階甘味喫茶
床：大判磁器質タイル
腰壁：タモ横ルーバー吸音壁
上部壁：土壁調複層仕上げ塗材　しっくい調薄付仕上げ塗材
●洋館２階展望プレーヌ
床：タイルカーペット
壁：既存土壁
天井：トラス小屋組み現し
●和館１階みせ七間・店舗
床：磁器質タイル四半敷き　ナラフローリング
壁：GB12.5tの上　けいそう土風内装薄塗材
天井：２階床組み現し
●和館１階通り土間
床：磁器質タイル四半敷き
壁：GB12.5tの上　けいそう土風内装薄塗材
天井：ルーバー天井　スギ25×50mm
●和館２階広間
床：畳敷き
壁：GB12.5tの上　しっくい調仕上げ
天井：和室およびトラス小屋組み現し
電気設備
受電方式：三相３線6.6kV　50Hz
設備容量：38.96kVA（洋館）　192.42kVA（和館）　計231.38kVA　電灯幹線74.22kVA　動力幹線157.16kVA
空調設備
空調方式：パッケージ型空気調和器（EHP）
換気方式：全熱交換熱換気方式　局所換気方式
給排水衛生設備
給水：上水道直結方式
給湯：局所給湯方式（都市ガス　一部電気式）
排水：屋外／汚水・排水合流方式　屋内／汚水・排水分流方式
ガス：都市ガス
防災設備
消火：パッケージ型消火設備
排煙：自然排煙
その他
既存タイル再利用によるブラケット照明

22
みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション きとね

建築主
南会津町
設計
建築：福島県建築設計協同組合　はりゅうウッドスタジオ（担当事務所）　担当／沼田崇志・斉藤 光
構造：エーユーエム構造設計　担当／濱尾博文・阿部光輝
機械：エム設備設計事務所　担当／斎藤義彦・岡 裕子
電気：遠山設備設計　担当／遠山邦夫
照明：スパンコール　担当／村角千亜希・ニノ貴絵里
家具基本構想：藤江アトリエ　担当／藤江和子・野崎みどり
ランドスケープ基本構想：STEP　担当／徳永 哲
あそぶば・つくるば展示計画：Mastro Geppeto　担当／富永周平
まなぶば選書計画：BACH　担当／幅 允孝・三篠陽平
施工
建築：芳賀沼製作　担当／田口卓弥・湯田 凌
設備：光和設備工業所　担当／星 憲嗣
電気：阿久津電気工事　担当／会田 俊
工程
設計期間：2020年４月～2021年３月
施工期間：2021年６月～2022年３月
規模
敷地面積：9,292.48m²
建築面積・建蔽率：1,121.76m²・9.79％
延床面積・容積率：820.59m²・0.83％
階数：地上２階
高さ：最高高さ／8.2m　軒高／5.3m
構造
木造
敷地条件
地域地区：都市計画区域内　区域区分未設定
道路幅員：東13.9m　北10.4m
主な外部仕上げ
屋根：ガルバリウム鋼板横合式立てはぜ葺
外壁：スギ板　実なし目透かし張り　ポリプロピレン黒色塗装防水シート　スギ板　ガラスシリケート塗料
開口部：木製サッシ　金属サッシ
外構：コンクリート金ごて仕上げ　アスファルト　シバ
主な内部仕上げ
●きとねサロン・きとねホール
床：磁器質タイル
壁：縦ログ構法壁現し　不燃木ｔ＝18mm　PBの上　塗装（EP内装薄塗り材E）
天井：不燃和紙クロス
●まなぶば・あそぶば・つくるば
床：広葉樹フローリング（カエデ　ホオ　クリ　トチ　ナラ　サクラ）
壁：縦ログ構法壁現し
天井：PBの上　内装薄塗り材E
●森林組合事務室
床：長尺シート
壁：PBの上　不燃ビニルクロス
天井：PBの上　不燃和紙クロス
●トイレ
床：長尺シート
壁：PBの上　クロス　ウッドウォールアート（森水面）
天井：PBの上　不燃クロス
電気設備
受電方式：高圧受電
設備容量：100kVA
空調設備
空調方式：空冷ヒートポンプパッケージ方式
熱源：電気
給排水衛生設備
給水：直結方式
給湯：貯湯型電気温水器方式

Selected Architectural Designs

2024

Journal of Architecture and Building Science Architectural Institute of Japan
建築雑誌 | 増刊 作品選集　日本建築学会

日本建築学会作品選集2024から引用・複写

日和山小幡楼

山形県酒田市日吉町2-9-37
高谷時彦

設計計画高谷時彦事務所

HIYORIYAMA OBATARO

2-9-37 Hiyoshi-cho, Sakata-shi, Yamagata
TAKATANI Tokihiko

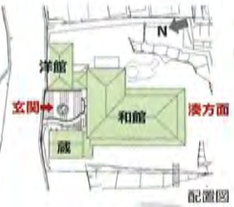
TAKATANI TOKIHIKO STUDIO

北（道路）側全景　洋館・和館・土蔵が並ぶ　※1撮影：プラネット高橋政知写真事務所

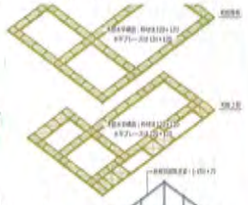
改修前　北（道路）側全景

改修前　南（湊，海）側全景

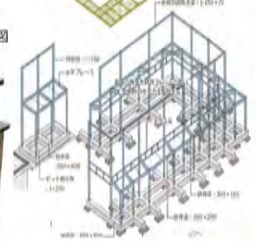
玄関　歴史に敬意を払いながら，新しい店の顔をつくった



配置図



洋館　耐震用鉄筋コンクリートボックスの挿入



和館　鉄骨造のグリッド構造で取り囲む

改修前　和館１階玄関部分

改修前　洋館地階（映画撮影セットが置かれている）

耐震用鉄筋コンクリートボックスの挿入＋鉄骨柱列で取り囲む

洋館，和館ともに歴史調査，現地調査を重ね，その特性と価値を生かしながら，新しい機能に対応できる空間づくりを目指した。耐震補強も空間の特性・価値に対応して発想。大規模な補強を行ったが，その姿を洋館，和館ともにそのままデザインに生かしている

洋館地階甘味喫茶　耐震補強鉄筋コンクリート壁ボックスをそのまま見せている ※2

洋館玄関　新しくデザイン

洋館階段室　できるだけ復元

既存タイル利用の照明 ※2

洋館２階展望ブレイス　無料市民利用スペース，和洋折衷の雰囲気 ※2撮影：オーデリック

明治の老舗料亭を観光交流拠点にリノベーション

小幡楼は湊町酒田を代表する老舗料亭。長く廃墟となり，取り壊しも検討されていたが，調査で歴史・建築的価値を明らかにし，創造的に再生して飲食施設とする大規模改修案を提出。酒田市（所有者）と地元企業の公民連携で，ベーカリーカフェ，甘味喫茶，市民利用スペースからなる交流観光施設に生まれ変わった。

フレンチの洋館，料亭の和館：強い個性が併存する湊町らしい風景をつくった

フレンチレストラン，伝統的な料亭，土蔵という異色の組み合わせが，料亭小幡楼独自の魅力。改修前のさびれた佇まいを残すべきとの声もあったが，かつての，「洋館，和館，土蔵のそれぞれが輝いていた時代と姿」を再現することが，地域再生拠点としてふさわしい方法だと考えた。和洋折衷で，高さも違う個性ある３つの建物が対比的なバランスで並ぶ湊町酒田らしい風景が生れた。

洋館は名物女将の精神を生かして坂上のランドマークとして再生

外観は本格的フレンチレストランとして開業した３階建て大正洋館を再現した。地階は無筋コンクリート造，１，２階は木造，そして外観は洋風だが，３階内部は和の設えというように，内部でも和洋の折衷がある。このおもしろさを最大限生かした。

耐震補強のために地階には鉄筋コンクリートの頑丈なボックスを挿入し，１階床を撤去して２層吹抜けの飲食空間とした。２階は和洋折衷の展望ブレイス，階段室は歴史展示のメモリアルホールとした。

和館は「料亭建築」から原点である「町家」へと空間を再構成

江戸の平屋町家をベースに，明治大正期に下屋，２階，中２階，小上りを増築した料亭建築であることが判明。全体をあいまいで複雑にしている下屋などを取り去り，酒田町家の特徴を際立たせるように骨格的空間を再構成した。２階は周囲に欄干を巡らせた広間を再生。市民の記憶の中の瓶海楼を復元した。

主な用途：飲食店・休憩所	Main use：cafe, lounge
敷地面積：2,174.65m²	Site area：2,174.65m²
建築面積：440.60m²	Building area：440.60m²
延床面積：766.30m²	Total floor area：766.30m²

OBATARO is a municipal facility that consists of bakery café, sweets café and free lounges, renovated from an old and renowned Japanese style restaurant. It is composed of three different style buildings, Yokan, Wakan and Dozo. Yokan is a 3 storied landmark of Sakata city, constructed in1922 by the well-known proprietress Nao OBATA for French restaurant use. While we rebuilt the exterior of Yokan in the same shape as it was built by Noa OBATA in Taisho period, we created a new café shop space with double ceiling height and surrounded it by rigid RC walls, inserted to reinforce the existing concrete walls without reinforcing steel bars.
Wakan is a Japanese traditional style building of wooden structure with 2 stories. We found that this Japanese style restaurant was originally built in Machiya style, traditional urban house unit. The added portions of Wakan were cleared to preserve the essential part of Machiya. Machiya structure was surrounded with corridors of steel colums to withstand a strong quake.

みせ土間　酒田町家にはなかったおおらかな土間。２階には土足で上がることができる

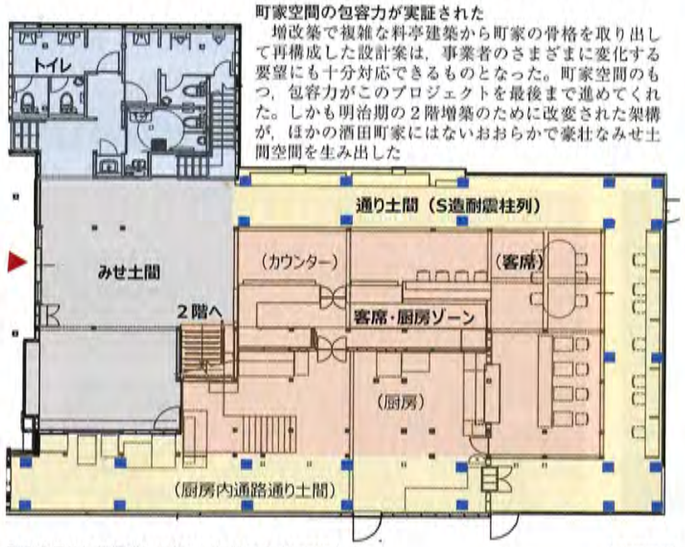
※2　通り土間　モダンで明るい鉄骨造コロネード

複雑な料亭建築から骨格となる町家空間を抽出して再構成する（耐震補強方式も対応）

みせ土間：現し天井(高)×土間×柱梁の卓越＝鍵土間を膨らませた新しいみせ空間
通り土間：ルーバー天井(低)×土間×鉄骨柱＝モダンで開放的な鉄骨造コロネード
客席厨房：現し天井(中)×木床×規則的な差鴨居＝２列居室型町家の記憶継承

町家空間の包容力が実証された

増改築で複雑な料亭建築から町家の骨格を取り出して再構成した設計案は，事業者のさまざまに変化する要望にも十分対応できるものとなった。町家空間のもつ，包容力がこのプロジェクトを最後まで進めてくれた。しかも明治期の２階増築のために改変された架構が，ほかの酒田町家にはないおおらかで豪壮なみせ土間空間を生み出した



町家の骨格に再編成して新しい機能に柔軟に対応した　1階平面図

客席　規則的に並ぶ差鴨居が町家の記憶を伝える

２階広間　酒田地震後改修のきわめて珍しい小屋組　※2

選評……安田直民

■明治初期の料亭建築のリノベーションである。設計者は，文化財としての価値も見い出せる歴史的建築物の希少性を指摘し，建物調査から活用方法までを，行政や指定管理者，テナントと深くつながりながら事業を進めている。廃屋同然の建物に粘り強く向き合い，市民や観光客に愛される利用価値の高い建築物に生まれ変わらせた力量は，大変大きいと評価できる。建物は利用することでその価値を発揮するという理念のもと，文化財としての再生や，かつての料亭の姿の再現にこだわらず，現代のニーズにあったベーカリーカフェとしてよみがえらせている。調査の段階で，建築物はその地方にかつて一般的であった町家の姿であったことを突き止め，そうした姿を手掛かりに再生の方向性を模索していくストーリーは，設計者の柔軟性と長年にわたって地域の建築物を研究した成果が結実している。再生された建物は，法的な制限をクリアし，構造的な補強，避難の安全性も確保しながら，往時の姿を想像させ，歴史的建築物の活用方法のひとつのあり方を示しているといえる。

Juror's comment……YASUDA Naotami

■This is the renovation of an early Meiji Period (late 19th century) restaurant. The architect, while pointing out its scarcity as an historic building worthy as a cultural property, tenaciously carried out the project from investigation of the building to study of its use, through close collaboration with the government, the designated administrator and tenants. His remarkable ability to persistently get to grips with this abandoned building and transform it to a highly useful facility very popular among citizens and tourists, is highly outstanding. Based on the concept that buildings demonstrate value only when well utilized, rather than focusing on their regeneration as cultural properties or reproduction of a restaurant as it was, the architect revived it as a bakery/cafe meeting today's needs. During investigation, he found that the building was once a *machiya* common in this region, based on which he sought a direction for its revitalization. Such narrative of the entire process proved fruitful as a result of the flexibility and long study of local architectural structures by the architect. The revitalized building, while meeting legal restrictions, and ensuring structural retrofitting and safety for evacuation, conjures an image of how the former building once was, thus demonstrating an example of ways to use historic buildings.